

平成28年度第1回津山市行財政改革推進委員会 議事概要

日時：平成28年5月23日（月） 13時30分～14時50分	場所：津山市役所2階 第1委員会室
出席者 <委員> 鳥越良光会長、坂本道治副会長、松田欣也委員、松本美幸委員、西本修治委員、多田憲一郎委員、小山京子委員、村岡政明委員、小西治之委員、中川真弓委員 <津山市> 宮地市長、大下副市長、常藤特別理事、部長級職員、行財政改革推進室職員 <傍聴人> 2名	
1 開会 2 市長あいさつ 3 委員委嘱 4 役員選出 5 会長あいさつ 6 協議事項 (1) 第9次行財政改革の取組について 後期実行計画の平成27年度実施結果について 事務局：平成27年度の取組内容と実施結果を説明。 委員：ふるさと納税について、目標を上回る結果となった理由は何か。 事務局：ふるさと納税のポータルサイト「さとふる」を活用した情報発信と魅力ある商品の提供に努めた結果であると思われる。 第9次行財政改革全体の集計について 事務局：重点目標について、一部未達の項目もあるが、概ね達成の見込みであることと公表は数値確定後の8月の予定であることを説明。 委員：経常収支比率の目標値は高い目標であると思うが、未達の原因は何か。 事務局：一番の要因は社会保障費の増加によるものである。 委員：定員適正化計画による職員数の減少について、正職員の減少のみ反映しているのか。普通財産の売却が進んでいるのは良いことだ。残っている普通財産の売却もできるだけ早く進め、整理してほしい。 事務局：職員数については、正職員数のみ反映している。 売却できる土地はほぼ整理しており、山林など処分の難しいものが残っている。今後はFM推進していく中で、施設を廃止した際の跡地処分を積極的に進めていきたい。 委員：事務事業の見直しにより、市民サービスの低下につながることはなかったのか。 事務局：事業仕分けの結果を受け、市として最善の方針として取り組んだものであり、関係の深い方には多少の影響があったかもしれないが、全般的には多くの市民にご理解いただき、推進してきたものであると考えている。 委員：民間委託等の実施で市へ大きな苦情が寄せられているということはないか。 事務局：そのようなことはないと考えている。	

第4回事業仕分け（平成26年度実施）取組状況

事務局： 民間社会福祉施設整備事業、グリーンヒルズ津山リージョンセンター管理運営、グリーンヒルズ津山ガラスハウス管理運営について、今後の方針と実施状況を説明。

委員： リージョンセンターについて、民間委託を目指す期限はいつまでか。

事務局： 指定管理者の導入について検討することとしており、導入を決定しているわけではない。よって期限も決まっていない。

会長： グリーンヒルズ津山一帯は市の財産でもあり、あの一帯を今後どうするのかビジョンを持たないといけない。

事務局： 今後はグリーンヒルズ津山内に新保育園が開園する予定であり、緑の中で交流を図るというコンセプトに沿い、市民の憩いと交流の場となるよう有効な活用方法を考えていく。

（2）第10次行財政改革実行計画の策定について

事務局： 効果額目標の設定方法を第9次行革の計画策定時と変更したこと、第10次行革実行計画の特徴的な取組について説明。

委員： 効果額目標の考え方について、数値の根拠は重要であり、その目標を達成すると津山市がどうなるのかという具体的な像が描けないといけない。例えば、民間活力導入について具体的な施設は想定しているのか。

事務局： 具体的に想定しているものがあるが、これから調査し検討する。

会長： 成果をあげるにはこれくらいは取り組まないといけないということだろう。

委員： 経常収支比率についても目標値を達成するための戦略を考え、具体的に取り組んでいくことが重要であり、それにより数値が生きてくる。

会長： 目標値と内容を一致させないといけない。これから内容を詰めていく中で、しっかり委員からも意見を述べていただきたい。

委員： 平成27年度実績値があるものは、小さくてもよいので比較が可能になるよう記入してほしい。

事務局： 8月の公表に向け、可能なものは対応する。

委員： 補助金の見直しについて、先程、民間社会福祉施設整備事業の補助金の見直しについて説明されたが、利子補給の必要ないものもあるかもしれない。資産内容等をよく精査して判断してほしい。

会長： 既得権益にならないように、補助金が効率的に活用されているかよく精査しないといけない。また、ワークライフバランスの推進は重要であり、職場環境の整備に取り組んでほしい。項目にあがっているものの実効性はあるのか。

事務局： 今後、働き方について改善していくため、各職場で具体的な取組を検討し、積極的に取り組んでいくこととしている。

委員： 重点目標となっている協働事業の成功のためにも職員にはゆとりが必要であり、時間外勤務の縮減は、金銭面からだけでなく事業の成功のためにも重要である。

(3) その他

委員： 職員は常に見られているという意識を持ち、市民に挨拶をしてほしい。ワークライフバランスの推進は重要だと思う。直近の住民満足度調査の結果を教えてほしい。

事務局： 昨年の第5次総合計画策定時に実施しており、詳細はHPに掲載している。

会長： 今後、計画の中身をつめていく中で、裏付けのある数値の提示をお願いしたい。住み続けたいまちにするためには、何が必要で何が不必要なのか取捨選択が必要であり、そのために皆さんの意見をしっかり出していただくようお願いする。

5 閉会 副会長あいさつ